



CORPORATE BOOK

平成23年3月期（第2期）



～創造と貢献～



代表取締役社長 襟川 陽一
代表取締役会長 柿原 康晴

わたしたちコーエーテックグループは、
独自のエンターテインメントの創造を通じて、
世界中の人々の心を豊かにします

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜わり厚く御礼申し上げます。
このたびの東日本大震災により被災された皆様にご挨拶とお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

さて、当社第2期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

ゲーム業界を取り巻く環境は、次なる成長のステージを迎えております。新ハードが発売または予定されており、さらには従来の家庭用ビデオゲーム、オンラインゲームに加え、新たにソーシャルゲームが急速に拡大してまいりました。今後は各分野のみならず、相互に連携したエンターテインメントの創出により、さらに盛り上がっていくことが期待されます。

このような状況下、当期においては「収益性改善」に注力し大幅な営業・経常増益と利益率の向上を達成いたしました。次期においては、「成長性と収益性の実現」を経営方針に掲げ、増収増益を果たすべく努めてまいります。成長性については、以下を重点課題としてチャレンジしてまいります。

- ・グローバルソーシャルゲーム戦略のもと、スマートフォン展開、海外市場への参入等により、ソーシャルゲーム分野で2倍の成長を実現
- ・新ハード対応とコラボレーションタイトルの推進等により、家庭用ビデオゲーム分野で新たなビジネスチャンスを開拓
- ・家庭用ビデオゲーム・オンラインゲームとソーシャルゲームの相互連携により、新しい価値を創出

収益性については、以下を徹底することで利益構造のさらなる改善を図ります。

- ・ナンバリングタイトルなど収益性の高いプロジェクトの充実
- ・組織のスリム化・効率化に加え、プロダクト面でのグループシナジーの創出
- ・継続的なコストダウン

これらの課題に対処すべく、本年4月に組織再編を実施し、より効率的、効果的な事業運営体制をスタートいたしております。

今後も、「創造と貢献」という経営理念のもと、「世界No.1のエンターテインメント・コンテンツを創発する企業グループ」を目指し邁進してまいります。

株主の皆様には、引き続き一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成23年6月

代表取締役会長 柿原 康晴
代表取締役社長 襟川 陽一

平成23年3月期の状況

当連結会計年度における世界経済は、全体として回復しつつあるものの、原油をはじめとする商品価格の上昇や欧米において高い失業率が継続すること等により、景気の先行きについては、依然下振れリスクが残る状況です。わが国経済におきましても、景気持ち直しの動きがみられるものの、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響により、先行き弱い動きが続くと見込まれます。

当業界におきましては、日本、北米、欧州の2010年家庭用ゲーム市場規模が前年を下回り、なかでもハード市場の落ち込みが目立つ結果となりました。しかしながら、任天堂株式会社が新型携帯機「ニンテンドー3DS」を2月に発売したほか、株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントも次世代携帯型エンタテインメントシステムの発売を予定しており、今後、各社から新ハードの普及を促すタイトルが数多く提供されることにより、市場の盛り上がり期待されます。ソーシャルゲーム市場におきましては、大手ソーシャル・ネットワーク・サービス運営各社による外部への自社ゲームサイトの

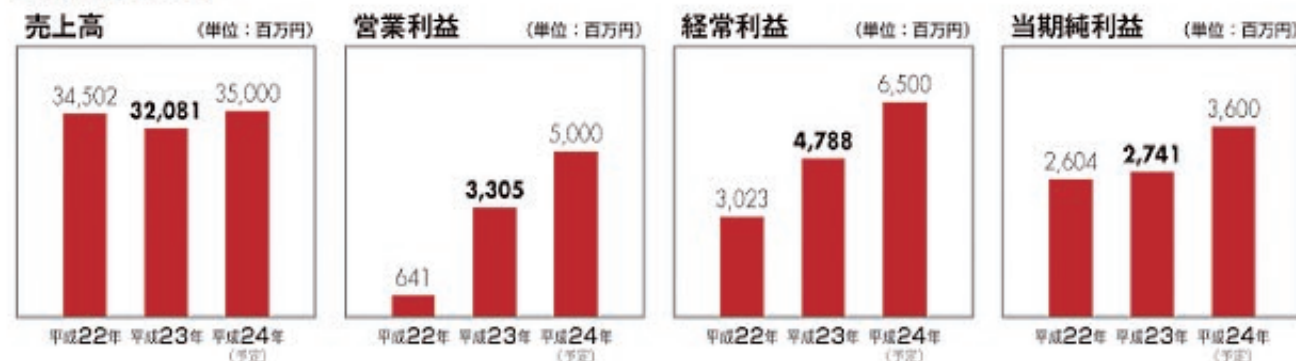
平成23年3月期



オープン化以後、魅力的なタイトルが大幅に増加しユーザー数が急速に拡大しています。これに伴い、有料アイテムの課金売上が大きく伸びるなど市場規模も高い成長を遂げている反面、参入企業の増加で競争は激しさを増しており、より付加価値の高いタイトルをタイムリーに投入できることが一層重要になっております。

このような経営環境下において当社グループの当連結会計年度業績は、東日本大震災の影響により一部タイトルの発売が延期されたことなどから前連結会計年度に比べ減収となりました。しかしながら、収益改善の継続的な取り組みや、ソーシャルゲーム市場への参入強化など、成長に向けた施策を展開したことで増益となり、売上高320億81百万円（前連結会計年度比7.0%減）、営業利益33億5百万円（同415.5%増）、経常利益47億88百万円（同58.4%増）、当期純利益27億41百万円（同5.3%増）となりました。

●財務ハイライト

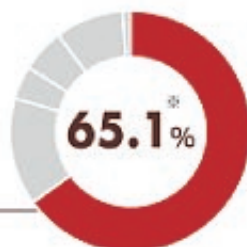




株式会社コーエーテクモゲームス

ゲームソフト事業

売上高 **21,594** 百万円 営業利益 **2,336** 百万円



「真・三國無双」シリーズの最新作「真・三國無双6」(PS3用、Xbox360用(海外のみ))を平成23年3月に国内外で発売し、出荷累計66万本を達成するなど順調に推移しております。「戦国無双」シリーズにおいては、「戦国無双3Z」(PS3用)および「戦国無双3猛将伝」(Wii用)を同年2月に同時リリースしたほか、「ニンテンドー3DS」のローンチタイトルとして「戦国無双Chronicle」(3DS用)を日米欧で発売いたしました。また、当社グループが開発に携わり、任天堂株式会社から発売となった「METROID Other M」(Wii用)や株式会社バンダイナムコゲームスから発売となった「ガンダム無双3」(PS3用、Xbox360用)が高い評価を受けました。

海外におきましては、国内市場で大ヒットした「北斗無双」を欧米向けにリリースし、また、多彩なバトルアクションやシリアスな表現により新しい「無双」の形を実現した「トロイ無双」(PS3用、Xbox360用)を投入するなど、グローバル市場への商品展開にも積極的に取り組んでおります。

なお、東日本大震災の影響により、一部タイトルが翌連結会計年度に発売延期となりましたが、主力ソフトのリピート販売が堅調に推移したことから増益となりました。

平成24年3月期におきましては、新しいハードの登場を大きなビジネスチャンスと捉え、積極的に対応ソフトの開発に取り組みます。また、パッケージゲームとソーシャルゲームの連動を強化し、事業シナジーを高めてまいります。さらに、海外市場を見据えた企画開発を徹底し、効果的なマーケティング活動でサポートすることにより、海外事業の拡大を図ってまいります。

※外貨顧客に対する売上高による割合



株式会社コーエーテクモゲームス

オンライン・モバイル事業

売上高 **4,610** 百万円 営業利益 **1,202** 百万円



急成長を遂げたソーシャルゲーム市場において、積極的にタイトルを投入いたしました。平成22年8月にサービスを開始した「100万人の信長の野望」に続き、同年10月に「100万人の三國志」、平成23年1月に「100万人のモンスターファーム」をサービスインし、同年3月には「真・三國無双6」の発売に合わせて「100万人の真・三國無双」のβサービスを開始いたしました。両「無双」タイトルには新たな試みとして、特別アイテムといった双方向での連動機能を実施しており、今後もパッケージゲームとの連携を強化することで、新たな価値の創造に取り組めます。さらに、「100万人の信長の野望」が登録数150万人に近づくなど、「100万人」シリーズは各タイトルとも順調にユーザー数を伸ばしております。一方、新たにPC向けタイトルとして、平成23年1月に「100万人の信長の野望」、同年3月に「のぶニャガの野望」をいずれも「Yahoo! Mobage」にてサービスインし、スマートフォン向けに関しましても同年1月に「100万人の三國志」のサービス提供を開始し、好調に推移しております。

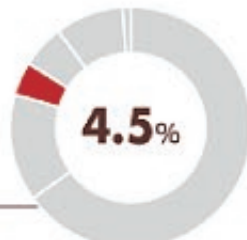
オンラインゲーム事業におきましては、既存タイトルのランニングコスト削減をはじめ、収益性の高いビジネスへの選択と集中を進めて収益力改善に取り組むとともに各既存タイトルの拡張パックを定期的にリリースし、人気を博しました。

なお、オンライン・モバイル事業におきましても東日本大震災の発生に伴い、一時サービスが停止するなどの影響がありましたが、早期復旧により被害を最小限に止めることができました。また、ソーシャルゲーム事業が収益基盤として大きく成長したことから、増収増益となりました。

平成24年3月期におきましては、グローバルソーシャルゲーム戦略の展開により、利益拡大を目指します。特に、国内外で加速するスマートフォン市場への対応を意図的に推進いたします。また、成長市場へリソースを集中する一方、オンラインゲームやゲームソフト、さらにメディア・ライツなど周辺事業と有機的に連携し、そのメリットを最大化させてまいります。オンラインゲームは、主力3タイトルのユーザー拡大施策を継続的に実施いたします。



株式会社コーエーテクモウェーブ
メディア・ライツ事業
 売上高 **1,483** 百万円 営業損失 **109** 百万円



「ネオロマンス・フェスタ 金色のコルダ 星奏学院祭3」、「ネオロマンス・イベント10 YEARS LOVE」など「ネオロマンス」イベントをコンスタントに開催し、多くのお客様にお楽しみいただきました。また、「戦国無双」を題材とした初めてのイベント「戦国無双 声優興義2010秋」を開催するなど、新たな取り組みも行っております。なお、イベント関連商品の販売につきましても安定した展開を見せました。

しかしながら、東日本大震災の発生を受けて、3月

開催予定の2つの大型イベントを中止したほか、一部商品の出荷が翌連結会計年度にスライドするなどの影響が発生いたしました。

本年4月には、「ネオロマンス」ブランドを中心とした女性向け市場に取り組む組織を統合する組織再編を実施いたしました。平成24年3月期におきましては、この新たな体制のもと、ゲーム、イベント、関連グッズ等のメディアミックス展開をタイムリーかつ効果的に展開し、ブランド価値の向上を目指します。

株式会社コーエーテクモウェーブ
スロット・パチンコ事業
 売上高 **1,896** 百万円 営業利益 **497** 百万円

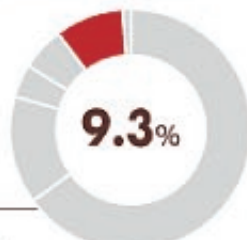


「NINJA GAIDEN」、「戦国無双」などの当社IPを有効に活用するため、積極的にパチンコ・パチスロ機への著作権許諾を実施いたしました。また、液晶向けソフトの受託開発についても順調に進んだことにより、売上は

伸長いたしました。

平成24年3月期におきましては、開発ラインの強化および効率化により安定収益を確保するとともに、グループIPの積極的な活用を通じて、成長力を高めてまいります。

株式会社コーエーテクモウェーブ
アミューズメント施設運営事業
 売上高 **2,972** 百万円 営業利益 **203** 百万円



既存店舗のリニューアルなど設備刷新による集客対策を進めるとともに、不採算店舗の閉鎖や経費削減の実行により、収益力強化を図りました。

平成24年3月期におきましては、店舗リニューアルやゲーム機械の刷新など、既存店舗の売上向上、収益力強化に注力してまいります。

パートナー各社の商品 (株式会社コーエーテクモネット)

アイディアファクトリー株式会社の女性向け恋愛アドベンチャーゲーム「薄桜鬼 (はくおうき)」シリーズ、「学園ヘタリア Portable」や、株式会社ガストの錬金術RPG「トトリのアトリエ ～アーランドの錬金術師 2～」、株式会社アクワイアの3DダンジョンRPG「剣と魔法と学園モノ。3」、株式会社アトムムーヴの恋愛アドベンチャーゲーム「クローバーの国のアリス」など、パートナー各社のタイトルが好調に推移いたしました。



超ワールドサッカー (CWS Brains株式会社)

サッカーファン向けの最新情報を提供する国内最大級の公式サッカーサイトです。海外・国内の最新情報を24時間365日フル稼働でお届けしています。



CSR

東日本大震災にて被災された皆様、ならびにご家族、関係者の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

コーエーテクモグループでは、このたびの大震災につきまして、コーエーテクモホールディングス株式会社および国内外グループ各社の役員・社員の募金により、22,615,542円の寄付を実施いたしました。

また、お客様からも、募金のほか、震災により中止となったイベントのチケット代金の義援金への振り替え、「真・三國無双6」・「信長の野望 Online」・「大航海時代 Online」・「真・三國無双 Online」で実施したチャリティアイテムのご購入、CWS Brains株式会社が運営するサッカー関連サイトで実施したチャリティダウンロードコンテンツのご購入等を通じて10,482,535円の義援金が寄せられ、合計で33,098,077円となっております。

(5月10日受け付け分まで集計)

このほか、被災地において生活・復興情報の発信・伝達のために「コミュニティFM放送局」を運営するボランティア、NPOの活動への支援金として、社会福祉法人中央共同募金会が創設した「赤い羽根「震災ボランティア・NPOサポート募金」」を通じて、今後2年間にわたって合計1億円を拠出いたします。

被災地の一日も早い復興を祈念いたしております。なお、従前より、社会に役立つゲームに関する調査研究等、学術研究分野に対する積極的な支援や当社グループ社員による献血活動への協力等も行っており、今後もエンターテインメント企業として学術・文化の発展をはじめとした、様々な社会貢献活動を行ってまいります。

● 連結貸借対照表

科目	(単位：百万円)		科目	(単位：百万円)	
	当期 平成23年3月31日現在	前期 平成22年3月31日現在		当期 平成23年3月31日現在	前期 平成22年3月31日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	25,293	26,222	流動負債	6,536	8,049
現金及び預金	10,685	6,551	支払手形及び買掛金	1,763	1,453
受取手形及び売掛金	7,688	8,469	未払金	1,226	2,128
有価証券	2,578	7,579	未払法人税等	669	2,014
商品及び製品	485	529	賞与引当金	668	536
仕掛品	300	516	役員賞与引当金	29	29
原材料及び貯蔵品	49	140	返品調整引当金	63	202
繰延税金資産	691	1,071	売上債引当金	267	184
その他	2,927	1,685	ポイント引当金	10	10
貸倒引当金	△114	△320	その他	1,836	1,488
固定資産	52,193	52,479	固定負債	1,188	1,342
有形固定資産	13,092	13,472	繰延税金負債	9	37
建物及び構築物(純額)	6,790	6,506	役員退職慰労引当金	—	473
土地	5,621	5,612	退職給付引当金	572	585
その他(純額)	681	1,352	その他	606	246
無形固定資産	3,698	4,762	負債合計	7,725	9,391
のれん	2,918	3,936	純資産の部		
その他	780	825	株主資本	75,402	73,789
投資その他の資産	35,402	34,244	資本金	15,000	15,000
投資有価証券	32,550	30,218	資本剰余金	24,640	24,640
更生債権等	27	160	利益剰余金	38,129	36,515
繰延税金資産	1,746	2,595	自己株式	△2,367	△2,366
敷金及び保証金	897	1,198	その他の包括利益累計額	△5,736	△4,585
その他	207	232	その他有価証券評価差額金	△1,873	△944
貸倒引当金	△27	△160	土地再評価差額金	△3,101	△3,101
資産合計	77,487	78,702	為替換算調整勘定	△760	△539
			新株予約権	95	94
			少数株主持分	—	12
			純資産合計	69,761	69,311
			負債純資産合計	77,487	78,702

● 連結損益計算書

科目	(単位：百万円)	
	当期 自平成22年4月1日 至平成23年3月31日	前期 自平成21年4月1日 至平成22年3月31日
売上高	32,081	34,502
売上原価	20,522	23,723
売上総利益	11,558	10,779
販売費及び一般管理費	8,253	10,138
営業利益	3,305	641
営業外収益	3,452	3,533
受取利息	1,913	1,916
投資有価証券売却益	599	1,194
デリバティブ利益	—	60
その他	940	362
営業外費用	1,969	1,151
有価証券評価損	141	122
有価証券償還損	1,281	514
為替差損	304	193
その他	241	321
経常利益	4,788	3,023
特別損失	272	—
在外子会社清算に伴う 為替換算調整勘定取崩額	137	—
資産除去債務会計基準 の適用に伴う影響額	135	—
税金等調整前当期純利益	4,515	3,023
法人税、住民税及び事業税	683	2,172
法人税等還付税額	△3	△197
法人税等調整額	1,093	△1,559
少数株主損益調整前当期純利益	2,742	2,607
少数株主利益	0	3
当期純利益	2,741	2,604

● 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科目	(単位：百万円)	
	当期 自平成22年4月1日 至平成23年3月31日	前期 自平成21年4月1日 至平成22年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	5,077	4,935
投資活動による キャッシュ・フロー	△2,074	△3,896
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,085	△4,354
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△300	△56
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	1,616	△3,372
現金及び現金同等物の 期首残高	9,145	12,517
連結の範囲の変更に伴う現金及び 現金同等物の増減額(△は減少)	17	—
現金及び現金同等物の 期末残高	10,779	9,145

●連結株主資本等変動計算書 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

(単位:百万円)

科目	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成22年3月31日残高	15,000	24,640	36,515	△2,366	73,789
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△1,127		△1,127
当期純利益			2,741		2,741
自己株式の取得				△1	△1
自己株式の処分			△0	0	0
連結範囲の変動			△0		△0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					—
連結会計年度中の変動額合計	—	—	1,613	△1	1,612
平成23年3月31日残高	15,000	24,640	38,129	△2,367	75,402

科目	その他の包括利益累計額				新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括 利益累計額合計			
平成22年3月31日残高	△944	△3,101	△539	△4,585	94	12	69,311
連結会計年度中の変動額							
剰余金の配当							△1,127
当期純利益				2,741			2,741
自己株式の取得							△1
自己株式の処分							0
連結範囲の変動							△0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	△929	—	△221	△1,150	1	△12	△1,162
連結会計年度中の変動額合計	△929	—	△221	△1,150	1	△12	450
平成23年3月31日残高	△1,873	△3,101	△760	△5,736	95	—	69,761

(平成23年3月31日現在)

●会社概要

商号 コーエーテックモホールディングス株式会社
(英文名称 TECMO KOEI HOLDINGS CO., LTD.)
資本金 150億円
本店所在地 神奈川県横浜市港北区箕輪町一丁目18番12号
設立年月日 平成21年4月1日
従業員数 単独 74名(※1) 連結 1,434名(※2)

※1 従業員数は就業人員(社外への出向者を除き、当社への出向者を含む)です。
※2 従業員数は就業人員(当社グループ外への出向者を除き、当社グループへの出向者を含む)です。

役員 (平成23年6月23日現在)

取締役名譽会長	襟川 恵子	常務監査役	長田 延孝
代表取締役会長	柿原 康晴	常務監査役	森島 悟
代表取締役社長	襟川 陽一	監査役(社外)	山本 千臣
取締役	阪口 一芳	監査役(社外)	大内 卓
取締役	小林伸太郎	専務執行役員CFO	浅野健二郎
		執行役員	原 毅
		執行役員	保坂 正敏

グループ会社

■国内グループ会社

株式会社コーエーテックモゲームス
株式会社コーエーテックモウェブ
株式会社コーエーテックモネット
CWS Brains株式会社
株式会社コーエーテックモキャピタル
株式会社コーエーテックモリブ
株式会社コーエーテックモミュージック
株式会社コーエーテックモアド
株式会社スーパーブレイン

■海外グループ会社

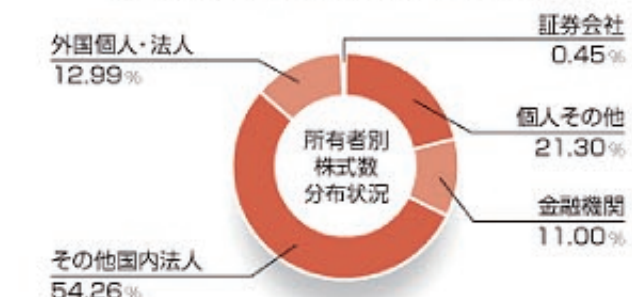
TECMO KOEI AMERICA Corporation (アメリカ・カリフォルニア州)
TECMO KOEI CANADA Inc. (カナダ・トロント)
TECMO KOEI EUROPE LIMITED (イギリス・ハートフォードシャー州)
TECMO KOEI SINGAPORE Pte. Ltd. (シンガポール)
UAB TECMO KOEI Baltija (リトアニア・ヴィリニュス)
台湾光栄特庫摩股份有限公司 (台湾・台北)
天津光栄特庫摩軟件有限公司 (中国・天津)
北京光栄特庫摩軟件有限公司 (中国・北京)
TECMO KOEI SOFTWARE VIETNAM CO., LTD. (ベトナム・ハノイ)

●株式の状況

発行可能株式総数・・・ 350,000,000株
発行済株式総数・・・ 89,769,479株
株主数・・・ 20,159名
大株主 (上位10名)

株式会社光優
(持株数 29,171/持株比率 32.49%)
環境科学株式会社
(持株数 6,502/持株比率 7.24%)
EUROPEAN KOYU CORPORATION B.V.
(持株数 5,730/持株比率 6.38%)
株式会社リズムスター
(持株数 3,383/持株比率 3.76%)
株式会社シーインザサン
(持株数 3,383/持株比率 3.76%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)
(持株数 3,115/持株比率 3.46%)
株式会社コーエーテックモゲームス
(持株数 3,044/持株比率 3.39%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)
(持株数 2,681/持株比率 2.98%)
THE BANK OF NEW YORK, TREATY JASDEC ACCOUNT
(持株数 1,868/持株比率 2.08%)
襟川 陽一
(持株数 1,864/持株比率 2.07%)

(注) 1. 持株数の単位は千株です。
2. 持株比率は自己株式(7,726株)を控除して計算しております。
3. 当社連結子会社である株式会社コーエーテックモゲームスが当社株主を保有しておりますが、これは、平成21年4月1日を効力発生日とした株式会社コーエーおよびテックモ株式会社の共同株式移転に対して、テックモ株式会社が反対株主からの株式買取請求を受けた後、平成22年4月1日付で株式会社コーエーが存続会社として同社と合併、商号変更したことに伴い取得したものであります。



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 6月下旬
配当金受領株主決定日 期末配当金：3月31日
取締役会決議により中間配当を実施する場合は
中間配当金：9月30日
- 証券コード 3635（東証一部）
株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
電話：0120-78-2031（フリーダイヤル）
- 同取次窓口 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
- 公告の方法 電子公告により行います。
ただし、（電子公告によることができない）
事故その他やむを得ない事由が生じたときは、
日本経済新聞に掲載して行います。
- 単元株式数 100株

■株主優待のご案内

当社は、株主の皆様からの日ごろのご支援に感謝の意を表するとともに、当社グループの事業へのご理解を深めていただき、より多くの株主様に当社株式を中長期的に保有していただくことを目的とし、株主優待制度を実施しております。

対象株主様：毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された当社株式1単元（100株）以上保有されている株主様

ご優待内容：当社選定の商品を優待価格（30%割引）にてご提供

保有株式数	割引適用個数
100株以上1,000株未満	3個まで
1,000株以上5,000株未満	5個まで
5,000株以上	10個まで

ご優待期間：毎年6月開催予定の当社定時株主総会翌日から7月末日までお申込みを受け付け

実施回数：毎年3月31日を基準日として年1回実施

コーエーテックモホールディングス株式会社

神奈川県横浜市港北区箕輪町1-18-12
<http://www.koeitecmo.co.jp/>